私のオススメ･･･豚野菜炒め用スライス　200g　350 円（税込 378 円）
☆よやく･る　毎週か隔週　税込　6 円引き☆

パック内容・ウデ、モモ、バラ、肩ロース、ロース肉等　　調理内容・塩こしょうのみで焼く、野菜炒め、しょうが焼き、お好み焼き、豚汁、カレー、肉ジャガ

よやく・るにしておけば、注文を忘れるということがありませんし、値引きになるのもうれしいです。そして、何より安心なのは、飼料のトウモロコシ・大豆粕が遺伝子組み換え対策済みであることです。日本は大量に穀物としてのトウモロコシを輸入しています。その輸入トウモロコシの約９割が遺伝子組み換えで、７２％が家畜の飼料に使われています。生活クラブの卵の親鶏、鶏、豚、牛に給餌する飼料は、遺伝子組み換え対策を行なっていますが、市販のものは、えさのことについては、表示されていないため、何を食べて育っているかわかりません。知らずして、遺伝子組み換えのえさを食べた畜産物をたべているということになります。つまり、畜産物は「隠れた遺伝子組み換え食品」といえます。アメリカにおける GMO・遺伝子組み換え作物の作つけ面積は９２％で、NON-GMO・遺伝子組み換えでないものはたったの８％です。その 8%の中でも、きちんと分別されて管理されるものは、わずか２%に過ぎません。生産から消費までの流通・トレーサビリティを確保することの難しさがわかります。そんな希少なトウモロコシを手に入れるために、私たち生活クラブの組合員の代表が毎年産地であるアメリカを訪問し、（２０２０年と２０２１年はコロナ禍でオンライン交流会)、NON-GM トウモロコシを食べ続けていきたい、という需要を示すとともに、生産性(収量)を高めた種子開発の継続についても依頼し続けてきました。

現在は、米国の種子会社及び集荷会社が種子の供給協定を結び、生活クラブの畜産生産者へ飼料を供給する JA 全農などへの供給分として、２０２６年に生産する分まで確保できています。しかし、この先も安心、というわけではありません。アメリカの穀物栽培農家では、どちらの種子を栽培したら経営が安定するかを考え、判断に迷うという状況です。このような状況が続くと、私たちが求める、遺伝子組み換えでないトウモロコシを手に入れることができなくなるかもしれません。遺伝子組み換えでないものを作り続けてもらうには、生活クラブで、NON-GM 飼料を使用した畜産物を利用し続けることが、NON-GM 作物の生産の維持につながります。私たちが、「約束した分は食べるので作ってくださいね」という姿勢をしっかり示しながら、消費材を「選んで」食べ続けることが大切ですね。赤木嘉奈子

「ゲノム編集されたトマトの苗が全国の小学校へ配布？子どもたちが食べてしまうかも！！！」

サナテックシード社が開発した、ゲノム編集 GABA トマト(シシリアンルージュハイギャバ)のオンライン上で販売が、２０２１年９月から始まっています。
販売を担うパイオニアエコサイエンス社が、このトマトの苗を２０２３年に、希望する小学校に無償配布することを発表しました。（２２年度はデイケアや自治体の健康福祉関連担当に募集を呼びかけています。）　小学校が受け入れれば、未来をつくる子どもたちが必然的に苗を育てたり、食べたりすることになります。GMO フリーゾーン運動の一環として、小学校へ「ゲノム編集食品」とはどういうものかを知らせ、小学校に苗を受け取らないように伝える必要があると考えています。　　大河内麻美

生活クラブ
生協フェスタ

10 月 9 日(日)
10 時半～14 時半
鶴見緑地ハナミズキホール
なたね油角缶・丸缶
シャリシャリフルーツ
お菓子を販売します。
NON-GM ブースに来てね！

NON-GM 委員募集中
NON-GM 委員会では一緒に学べる仲間も随時募集中です。月に１回午前中に集まっています。興味のある方は生活クラブ大阪組織運営課 072-641-5547 まで

NON-GM NEWS

NON-GM 委員会ニュース NO. 2　　2022 年 9 月 5 日週発行

2022 年全国 GM ナタネ自生調査活動報告会レポート　2022/07/16

生活クラブでは、「遺伝子組み換え」されたナタネがどれだけ日本で広がっているか毎年、市民による自生調査を他団体(６生協、１団体)とともに行っています。「遺伝子組み換え」とは、その植物が本来持っていない遺伝子を組み込んで作る技術のことで、現在日本では GM 作物の商業栽培はされていませんが、菜種油の原材料として輸入された遺伝子組み換えナタネが輸送時のこぼれ落ちによる自生が広がっています。

近年は従来見つかるはずのない住宅地などでも見つかっていて、環境への影響が懸念されています。自生すると他の植物との自然交雑されるので、知らない間に広がっていく可能性があります。22 年度、コロナ禍でしたが 6 生協で 943 検体の検査を行い、10 道県で GM ナタネが発見され、特に福岡県では陽性率が高かったと報告がありました。他は、陽性率は減少傾向とのことでしたが、広がりを食い止めるために今後も継続して市民による調査にみんなで参加しましょう！

今回のトピックスは「遺伝子組み換えナタネの汚染からゲノム編集作物を考える」として、遺伝子組み換え食品はいらない！キャンペーン代表の天笠啓祐さんと日本消費者連盟事務局長の綾瀬美千代さんが対談されました。「ゲノム編集」とは、その作物が持っている遺伝子の配列を変更して作られる作物のことです。そして、このゲノム編集された食品は、すでにネット上で販売されています。フグはふるさと納税の返礼品になっています。身体や環境にどのような影響を与えるか分からない人為的に作られたフグやトマトに危機感を覚え、立ち上がって署名運動や企業への質問状の送付、市長と話し合いをするなど地元地域の市民・団体の奮闘が報告されました。美味しいものや栄養成分の多いものを人為的に作っている是非はあると思いますが、この流れに従っていいのか。将来への影響を考え、奮闘されている地元の人の報告は胸を打ちました。

桑代サツ子

報告会は現在 YouTube でアップされています。
日消連ライブチャンネル

これまでに宣言をしたことがない方、キリトリ以下に記入をして
配達便で提出してくだい。お待ちしています♪

『GMOフリーゾーンサポーター宣言』をしてGMOフリーゾーン運動に参加しよう！

生活クラブ生協大阪　2022年度　　NON-GM委員会　発行

農地を持たない人が、遺伝子組み換え(GM)作物や、GM食品に反対し、GM作物の栽培やGM食品の生産、販売を拒否する「GMOフリーゾーン宣言者」を支援する「GMOフリーゾーンサポーター」になることを宣言します。

「遺伝子組み換え作物を栽培して欲しくない」「遺伝子組み換え食品は買いたくない・食べたくない」と思う方。『GMOフリーゾーンサポーター宣言』をしませんか？　誰でも宣言できますよ☆
食の未来のために、おおぜいの仲間で輪を広げ、GMOフリーゾーンを守っていきましょう！

GMOフリーゾーン宣言とは、遺伝子組み換え作物(GMO)を栽培しないという宣言です。

遺伝子組み換えは、作物等の遺伝子に全く異なる生物の遺伝子を導入する技術で、食品としての安全性、環境への影響について懸念があります。遺伝子組み換え作物の栽培が始まって約30年、栽培面積は2億haに近くなり、北米では遺伝子組み換え鮭の生産流通が始まっています。加えて、ゲノム編集技術という新しい遺伝子操作技術が登場し、日本ではゲノム編集作物の栽培が始まってしまいました。ゲノム編集魚類・家畜・昆虫も研究されています。

食品の遺伝子操作が新しい段階に突入し、国内でも栽培が始まってしまった状況で、GMOフリーゾーン運動の必要性がこれまでになく高まっていると言えます。GMOフリーゾーンにゲノム編集生物(作物・家畜・魚類・昆虫等)を含め、食品の遺伝子操作を許さない生産者と消費者、その間をつなぐ事業者等が連帯して発展させ、GMOフリーゾーンの輪を広げていきましょう。

呼びかけ・集約団体　「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」　WEBサイトより引用～

サポーター宣言された方には左のシール（宣言証明書）をお渡ししています♪
携帯などに貼って周りの方に広めてくださいね。

問い合わせ先　組織運営課0726-41-5547

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　き り と り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『GMOフリーゾーンサポーター宣言』します。

■宣言者名　　■宣言年月日：　　年　　月　　日

■住所：　　都道府県　　市

■ブロック　　■地区　　■組合員コード　　・

↑※シールを送付しますのでお知らせ下さい。

※記入された情報は規則に沿って管理し、生活クラブ生活協同組合大阪の活動以外の目的には使用しません。
お問い合わせ先　生活クラブ生活協同組合大阪　組織運営課　TEL　072-641-5547